

## 日本政治学会研究大会でボーダースタディーズ

2018年10月13日と14日の2日間にわたって、関西大学千里キャンパスで2018年度日本政治学会研究大会が開催されます。日本政治学会では初となるボーダースタディーズに関する公募企画が組まれました。ABS jのメンバーが勢ぞろいです。奮ってご参加ください。

[http://www.jpssa-web.org/conf/2018/program/session.html#bunkakai\\_a](http://www.jpssa-web.org/conf/2018/program/session.html#bunkakai_a)

公募企画：ボーダースタディーズの新展開—欧米日の主権・統治・領域性をめぐって

1990年代以降、「ボーダーレスな世界」が到来するという見方は経済的グローバル化が国境の溶融に帰結していくというものであった。しかしながら、9・11テロや近年におけるEUの難民危機を契機として、国境管理を強化しようとする国際社会の政策的兆候を見れば、「ボーダーレスな世界」の到来は、もはや将来的展望としてはリアリティーが感じられない。ボーダーをめぐる現代世界は、ボーダーの機能的役割が変容しながら、「脱境界化」と「再境界化」が同時進行する世界なのである。そこで本企画では、欧米で発展を遂げ、日本でも新たな展開を見せつつある「ボーダースタディーズ（境界研究）」の知見を生かしながら、ボーダーのもつ重層的かつ複合的な側面を明らかにし、主権国家の核心的要素であった主権、統治、領域性の三位一体関係がどのように変容をしているのかに迫ってみたい。

司会：池 炫周 直美（北海道大学）

報告：惑星限界の系譜学—化石燃料から考えるヨーロッパ型主権国家システムの遺産

前田 幸男（創価大学）

報告：国境の「壁」をめぐる政治学—主権の空間変容

川久保 文紀（中央学院大学）

報告：「有人国境国境離島法」制定に見る日本のボーダーランズ政策における新展開

古川浩司（中京大学）

討論：佐々木 寛（新潟国際情報大学）

花松 泰倫（九州国際大学）

文責：川久保文紀